



星総合病院乳腺外来

乳腺外科の業務には主なものとしては①外来 ②手術・病棟 ③緩和 ④検診 があります。今回は当科の外来について紹介いたします。

当院の乳腺外来は月～金の全日に設けてあります。その業務は、新患・紹介、検診の2次検査（精検）、化学療法、再発治療、術後治療、良性疾患フォローアップ、がんの遺伝外来、甲状腺外来など多岐にわたります。新患は自分で乳房に異常を感じて来院される患者を診療しますが、最近の制度では選定療養費（7000円税別）が別途かかるため、できるだけかかりつけ医や近所の診療所を受診していただき紹介状を書いていただくようおすすめしています。一番心配されるのは乳がんですが、乳がん以外にも乳腺症や良性腫瘍の場合も多く、痛みを訴える患者の中にはティーツェ病（上位肋軟骨の非特異炎症）やモンドール氏病（乳房下部の皮下血栓性静脈炎）などもあります。意外に多いのは大胸筋の筋肉痛です。腕を使いすぎたりお孫さんを抱っこしたりしたことが原因になります。注意しなければならないのはパジェット（ページェット）病です。乳輪部の湿疹と間違いやすいので皮膚科の先生にお願いして生検をしていただく場合もあります。アトピーではよく両側性に乳輪部湿疹様変化をきたします。男児の思春期女性化乳房、女児の思春期乳腺のこりこり（これは生理的のもので、やわらかい乳房に成長する前に一時的に乳頭下にこりこりができるのです）も親が心配して受診します。なぜか片側性が多いです。一般的に成人ではしこりの訴えがもっとも多いのですが、当科では両側のマンモグラフィ、訴えのある側のトモシンセシス（断層マンモ）を診察前にルーチンに施行しています。診察では問診、触診、超音波検査を施行します。そして病態にあわせて超音波ガイド下穿刺細胞診あるいは針生検、予約検査でマンモグラフィガイド下吸引針生検を実施します。全国で数施設しか稼働していないMRIガイド下吸引針生検装置も導入しました。

新患・精検業務のほか、化学療法外来も重要な仕事です。術前・術後・再発の化学療法（抗癌剤、分子標的治療、免疫治療）患者の当日の体調・採血チェック・化学療法実施の可否判断です。乳がんの外来化学療法は年間約1600件に及びます。毎週火曜日には福島県立医大腫瘍内科の佐治教授が化学療法外来診療応援・指導に来院されています。術後外来は主に内分泌療法の内服薬のみになった患者（3か月ごと）・内服薬なしのフォローアップのみの患者（3～6か月ごと）の診療です。原則として最低10年間はフォローアップしていますが、乳がん患者の急増によりこの外来がパンク寸前です。術後フォローアップの患者をどのように連携診療していくかそのシステムをいかに構築するかが、今後の県中地区乳がん診療を円滑に進めていくカギになると考えていますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。がんの遺伝外来、甲状腺外来については別号でご紹介いたします。

（文責：野水 整）

乳腺外来担当表（新患・紹介・2次検診のみ）

	午前	午後
月	—	片方
火	野水・片方・長塚	野水・松崎・長塚
水	野水・松崎	—
木	片方・南	—
金	野水・南	片方

第1回郡山遺伝性腫瘍ネットワーク勉強会のお知らせ

この度、遺伝性腫瘍に関する地域ネットワークを立ち上げ、定期的に勉強会を開催することを計画致しました。キックオフミーティングおよび初回の勉強会を下記の通り開催します。奮ってご参加頂きますようお願い申し上げます。

日時：2024年（令和6年）1月23日（火）

18：00～18：30

形式：Zoomを使用したオンライン形式

参加方法：併記のQRコードよりお申し込み下さい。

後日、参加方法の詳細を事務局よりご連絡致します。

内容：①症例提示（遺伝性乳癌卵巣癌）

②遺伝性腫瘍専門医・認定遺伝カウンセラーによる解説

申込QRコード



治療実績

乳がん検診受診者数（11月）

郡山市乳がん検診	89件
郡山市を除く自治体乳がん検診	21件
ドッグ職域健診を含む任意型健診	153件

乳腺外来新患者数（11月）

乳腺新患者様	68件
（紹介の患者様）	29件
（2次検査の患者様）	32件
（乳がんの患者様）	25件

手術数

11月 乳房全切除	10件
1月～10月合計	150件
11月乳房部分切除	5件
1月～10月合計	68件

ながつか みき

スタッフ紹介

長塚 美樹

秋田県由利本荘市出身

2002年医師免許、日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本遺伝性腫瘍学会専門医・暫定指導医、マンモグラフィ読影資格

秋田大学医学部第一外科で外科の修練を受け、北茨城市民病院等を経て星総合病院勤務、当院外科で乳腺外科の修練を受ける、郡山市医師会乳検マンモ読影委員

乳腺外科医長

